

# 戸隠伝統的建造物群保存地区 防災計画の策定について

## 教育委員会事務局 文化財課

### ○ 戸隠伝統的建造物群保存地区 防災計画にかかる経過と予定

- H27.11.26 部長会議（伝建制度導入の承認 ※制度導入後、防災計画を策定する方針を説明）
- H28.4.1 伝統的建造物群保存地区保存条例を施行
- H28.4.4 部長会議（保存計画等の決定スケジュールについて、住民意見の徴取について）
- H28.8.1 部長会議（保存計画と補助制度の承認 ※保存計画において防災計画の早期策定を明記）
- H28.8.5 保存地区・保存計画を決定
- H29.2.23 国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定
- H29～R1 防災計画策定調査を実施（防災計画策定調査に係る専門家会議を設置）
- R3.9.30 部長会議（防災計画策定について）
- R3.10.5 市議会政策説明会
- R3.10.11 長野市伝統的建造物群保存地区保存審議会へ諮問
- R3.10～12 住民の意見聴取、文化庁等との調整
- R4.2 長野市伝統的建造物群保存地区保存審議会より答申
- R4.2～3 部長会議（防災計画の承認）  
教育委員会にて防災計画の決定 ➔ R4年度より防災対策事業に着手予定

# 防災計画の概要



茅葺屋根の宿坊



住民による初期消火訓練



## ○ 計画の目的

- ✓ 防災上の特性と課題に対して、有効な対策をソフト・ハード両面から検討し、短～長期の対策事業を定める。
- ✓ 住民・地域・行政の役割を明確にし、文化財的価値を守りながら防災力の強化を図る。

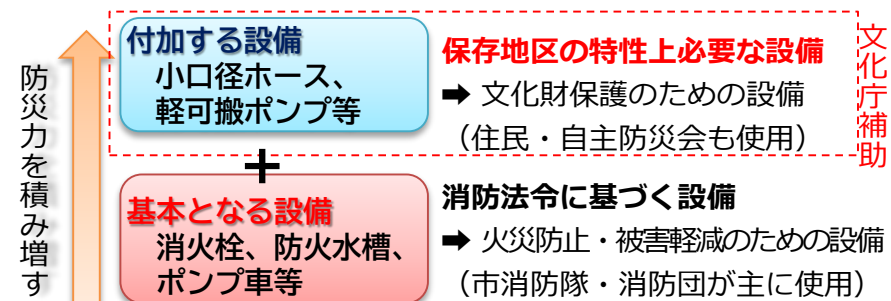
## ○ 計画期間

令和4(2022)年度～令和13(2031)年度

## ○ 保存地区の防災上の特性(課題)

- 飛び火による類焼の危険性が高い(茅葺の建物がが多い)
- 近隣での火災の早期覚知が困難(隣家との距離がある)
- 市消防隊による初期消火が困難(近くに消防署がない)
- 伝統的建造物の耐震性に課題がある(外壁が少ない)
- 降雪量が多く、雪害が多発する(特別豪雪地帯に指定)
- 冬季の住環境が大変に厳しい(標高1,100m以上)
- 多くの伝統的建造物が宿泊施設として利用されている(建築基準法などの関連法規との整合が必要)

## ○ 防災力向上のスキーム(例:火災の場合)



# 防災計画の構成と事業フレーム(案)

## 防災計画の構成

### 1 防災計画の目的

計画策定の背景、計画策定の目的、計画の概要、関連する計画等

### 2 防災計画の基本方針

- ① 個々の建造物等の防災性能の向上
- ② 地区全体の防災力の向上
- ③ 地域コミュニティの防災力の向上

### 3 防災対策事業の内容

防災全般、火災、地震、雪害、その他の災害に関する課題と対策

### 4 防災対策事業の全体フレーム

**※ 事業主体、実施目標時期(短～中長期)を整理**

### 5 今後の課題

建築基準法の緩和、効果的な防災対策事業の推進

## 抜粋 市が主体として実施する事業(短期目標)

ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民向け防災マニュアルの作成</li> <li>・ 建造物の構造補強指針の作成</li> </ul>
ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存消火栓への小口径消火ホース等の配備</li> <li>・ 軽可搬消防ポンプの配備</li> <li>・ 延焼危険度が高い建物への消火設備の設置</li> <li>・ 既存防火水槽へのサクシオンパイプの設置</li> <li>・ 外部通報システムの整備 など</li> </ul>

## 防災対策事業の財源構成

国・県補助 (68～56%)

過疎債 (32～44%)

市単費分に過疎債を充当

※ 過疎計画期間(～R8)に短期目標に据えた事業を実施し、一般財源からの支出を抑制

## 防災対策事業の全体フレーム(案)

項目	課題	対策	ハード	ソフト	継続	短期	中・長期	地域	行政	その他
1 防災全般	1-(a) 災害に対する理解の促進	1-(a)-① 住民向け防災マニュアルの作成	●					◎	◎	
		1-(a)-② 防災に関する勉強会の開催	●					◎	◎	○(大学等)
	1-(b) 災害に強いコミュニティの再構築	1-(b)-① まちづくり活動の活性化	●					◎	◎	
		1-(b)-② 災害時の安否確認のルール化	●					◎	◎	
		1-(b)-③ 災害時の要援護者の把握と共有	●					◎	◎	
	1-(c) 効果的な防災訓練の実施	1-(c)-① 住民参加型の防災訓練の定期実施	●					◎	◎	
		1-(c)-② 専門家の指導による想定訓練の実施	●					◎	◎	○(大学等)
	1-(d) 観光客への対応	1-(d)-① 観光客の一時避難場所・避難所の検討	●					◎	◎	
		1-(d)-② インバウンドにも対応した避難誘導設備の整備	●					◎	◎	
	1-(e) 早期復旧・復興への取り組み	1-(e)-① 応急復旧資材の確保	●					◎	◎	
1-(e)-② 修理用建材のストックヤード整備		●					◎	◎		
1-(e)-③ ヘリテージマネージャーや職人等との連携強化		●					◎	◎	○(HIM等)	
1-(e)-④ 建物別の修理履歴や図面の整理・保存		●					◎	◎		
1-(e)-⑤ 古写真や史料の保管・記録		●					◎	◎	○(大学等)	
2 火災	2-(a) 出火予防	2-(a)-① 出火危険箇所の把握と日常点検の実施	●					◎	◎	
		2-(a)-② 老朽化した電気配線・設備の更新	●					◎	◎	
		2-(a)-③ 感震ブレーカーの設置促進	●					◎	◎	
		2-(a)-④ 不審火・失火防止のための業種活動の実施	●					◎	◎	
	2-(b) 早期発見・早期通報	2-(b)-① 住宅用火災警報器の設置・管理	●					◎	◎	○(設備付)
		2-(b)-② 自動火災報知設備の機能強化	●					◎	◎	○(設備付)
	2-(c) 初期消火・延焼防止	2-(c)-① 外部通報システムの整備	●					◎	◎	○(設備付)
		2-(c)-② 消火器、水道式消火機器の配備	●					◎	◎	
		2-(c)-③ 既存消火栓への小口径消火ホース等の配備	●					◎	◎	
		2-(c)-④ 軽可搬消防ポンプの配備	●					◎	◎	
2-(c)-⑤ 延焼危険度が高い建物への消火設備の設置		●					◎	◎		
2-(d) 施設での避難・誘導	2-(d)-① 飛び火警戒体制の構築	●					◎	◎		
	2-(d)-② 冬季も考慮した避難経路の確保	●					◎	◎		
	2-(d)-③ 施設ごとの避難誘導計画の作成	●					◎	◎		
	2-(d)-④ 既存防火水槽へのサクシオンパイプの設置	●					◎	◎		
	2-(d)-⑤ 消火栓の新設・適正配置	●					◎	◎		
	2-(d)-⑥ 多動同時放水のため消防水利を拡充	●					◎	◎		
3 地震	3-(a) 建物の耐震対策	3-(a)-① 劣化・破損の日常点検と初期補修の実施	●					◎	◎	○(HIM等)
		3-(a)-② 家具等の転倒防止対策の実施	●					◎	◎	
		3-(a)-③ 適切な雪下ろしの実施	●					◎	◎	
		3-(a)-④ 耐震診断の推進	●					◎	◎	○(HIM等)
		3-(a)-⑤ 建物の構造補強指針の作成	●					◎	◎	○(大学等)
		3-(a)-⑥ 建物の構造補強の推進	●					◎	◎	
3-(b) 工作物の耐震対策	3-(b)-① 石垣等の構造補強の推進	●					◎	◎		
	3-(b)-② 地震時の危険性についての注意喚起	●					◎	◎		
4 雪害	4-(a) 建物の補強・改修	4-(a)-① 雪害発生箇所の構造補強	●					◎	◎	
		4-(a)-② 雪溜まり箇所の覆朽対策	●					◎	◎	
	4-(b) 屋根積雪の抑制	4-(b)-① 適切な雪下ろしの実施(再掲)	●					◎	◎	
		4-(b)-② 屋根積雪装置の導入推進	●					◎	◎	
4-(c) 排雪処理	4-(c)-① 適切な積雪間隔の確保	●					◎	◎		
	4-(c)-② 共同排雪場所の確保	●					◎	◎		
5 その他災害	5-(a) 土砂災害対策	5-(a)-① 県(治山事業等)との連携	●					◎	◎	
		5-(a)-② 樹木の日常点検の実施	●					◎	◎	
		5-(a)-③ 樹木診断に基づく樹勢回復	●					◎	◎	
5-(b) 倒木・落枝対策	5-(b)-① 樹木の日常点検の実施	●					◎	◎		
	5-(b)-② 危険木等の伐採	●					◎	◎		